

安西冬衛全集

第三卷

安西冬衛全集

第三卷

宝文館出版

安西冬衛全集 第三卷

昭和五十八年八月三十日 第一刷發行

定價 四五〇〇圓

著 者 安 西 冬 衛

編 者 山 田 野 理 夫

發行者 羽 生 和 男

發行所 寶文館出版株式會社

東京都千代田區神田神保町三ノ一七
郵便番號一〇一

振替東京五十二八〇

電話〇三(二六一)四四〇九

印刷所 中臺整版
製本所 黑岩大光堂

目次

未刊詩篇(一)

I 大正十三年(一九二四)―昭和五年(一九三〇)

競賣所のある風景……………	22	冬……………	27
埋れた帆船……………	23	探偵……………	27
雨によごれた停車場……………	24	北國と稚拙……………	28
陸橋と不幸な少女……………	25	支那装せるマドモアゼル・冬……………	29
雨によごれた停車場……………	26	療養院……………	30
早春……………	26	鯉……………	30
冬盡……………	26	門……………	31
未完成の詩・作品第十番「きやんと る・ちめんたびれ」の序曲……………	26	戦争……………	32
		坂……………	32

港・帆船を主題とせる……………	33
ある不幸な一日の Arrangement やあはせ	
電話の後……………	34
褪紅色の膝掛……………	35
窓際の婦……………	36
食後……………	37
——にて……………	38
村のエスキース	
・あの土を全部あすこへ……………	39
・教會……………	39
曇日と停車場……………	40
アンリ・マチス風の室内に配せる アランジュ	
或る姉弟の肖像とその背面にカム	
フラージュされたる自像 或は地	
球儀と愛國婦人會をモチーフとせ	
る姉弟のある Assemblage……………	40
冬構……………	41

戦後……………	42
打虎山……………	42
陰陽……………	43
大連……………	44
入江……………	44
マリア・ブランシャール……………	44
春日煦々……………	45
紋章……………	45
凱旋門……………	46
春……………	47
春……………	48
オダリスク……………	48
Lev……………	48
少女……………	49
タンポポ……………	49
海……………	50
春……………	51

マリイ・ロオランサン夫人	51
春	52
前菜	52
秋	53
紋章	53
古いネエデルランドの冬	54
TINT	
曇天	55
日光	55
しぐれ	56
十二月	56
薪	57
扉の書	59
紋章	59
櫻の落葉	
○曇り日の博物館で	60
○Water closet	60

○堀池の僧正	60
○N氏の話	61
○指物師 勘堂	61
○冬	61
○立公 ^{たち}	62
○又	62
○述懷	63
○ストーブにあたりにくる男の名	63
途上	63
閑葛藤	64
冬色	65
櫻の落葉	65
役	66
黄河の仕事	66
主として新兵器に就て	
航空機の發祥	69
彈丸の進歩	70

レヴィシットの無力	70	百萬弗	82
輕機關銃の改良	70	瓦斯	84
タンクの復古	71	咫尺	85
水雷戰術の紀元	71	饑饉	86
輕巡洋艦の強靱	72	記憶	86
要塞の結構	72	五	87
Super-dreadnought の莊嚴	73	善	87
未成鐵道	73	刑	88
ハレム	74	七	88
「未成鐵道」より	75	北	89
臘月のひとに	76	縦の木の中にある火	90
イラクと花粉熱	76	ヴン・ドンゲンに関する一挿話	91
府	77	一九二七年	92
揚子江バグダード鐵道波斯橫斷問題	77	百分率	93
土耳其風呂	78	官吏侮辱罪	94
續德一家の LESSON	79	經驗	94
續々德一家の Lesson	81	戰爭と平和	95

燭臺……………	96
ドミトリの帳尻……………	97
黒と白……………	98
業……………	102
サンドキッチ……………	102
大落日……………	104
鋏……………	105
黒い河……………	106
備忘録……………	111
天秤座……………	113
酩酊する男……………	113
ラズルダズル腸詰會社……………	113
グラッドストーンの内部……………	114
ランゲルハンス氏島……………	115
藝術と反抗……………	115

王領大學校……………	115
暖い博覽會……………	116
白い赤十字……………	116
賢い民……………	116
文明……………	117
赤星家の甲冑……………	117
三の宮驛……………	117
自轉車問屋からの求婚……………	117
慈善……………	118
洋燈……………	118
牛莊の手巾……………	121
田舎住……………	122
井……………	122
田舎住……………	122
藍……………	123

Ⅱ 昭和六年（一九三二）—昭和十年（一九三五）

尾のない太陽	126	樹液の中にある音楽	133
時差	126	神々が甫めてわたくしたちに翼を	134
隨筆と小品		老いた太陽は新しい傷口を療治する	134
夜寒	127	火の獄	135
チエーホフの庖丁	128	跡見	
ぬきがき	129	悶える鹿	138
スポーツ	129	貞任之胸座化爲酒頬菱喰	139
ラズル・ダズル	130	蕁麻と公算	139
現代の英雄		獵	140
百年の知己	131	かくて古りゆく時	140
汎帝國主義	131	薄暑の砌	141
匿名政治	132	大英帝國日未だ没せず	142
邊疆辯理公司	132	「渴ける神」紀要	143
現代の英雄	132		

挽歌

冷酷な音楽	146
氷の檻	147
魔笛	147
胡蘿蔔	148
蛇の卵	148
松樅等	149
沙	150
秋	152
タブー	153
猶太	153
星條旗	154
言語學者の加擔	154
蛇の音	156
歩兵	158
亞細亞的函數	159
寒い國の春	160

二百十日	163
領袖	164
玄い石	164
間者	166
テレビン	167
海戰	168
鼻祖	169
赤い停仔脚の成不成功	170
フィラデルフィヤ 小亞細亞の古い府	170
ルフィヤ 亞米利加の古い府	170
それは品のいいコートに檻樓と骸炭 を拾ひに下りてくる鴉に與へる坐 標軸である	170
一滴一グラムの水の質量に象眼され てゐる純粹な動員計劃	171
圓い塔の一角に坐して肉體を毀つ	171
廢語	172

Ⅲ 昭和十一年（一九三六）—昭和十五年（一九四〇）

凌水觀にて……………	174
保険附の支那蒸氣……………	175
オクタープに跨る怪物……………	177
子供謝肉祭……………	178
ベン……………	179
黒と金……………	181
馬は男爵……………	182
秋籬……………	183
靴と劇場……………	184

パバイヤとタフタ……………	184
紅い河……………	185
海の聯曲……………	185
千鳥……………	185
貝屏風……………	186
虹……………	186
大漢口陥落す……………	186
龍の爪……………	188
エドワード七世と古代の洞窟……………	189

Ⅳ 昭和十六年（一九四一）—昭和二十年（一九四五）

鼻祖……………	192
---------	-----

櫻四章

木花之佐久夜比賣	193
木花開耶姬	194
櫻	194
さくら	195
山の暮春	196
ガマビル	197
シッタン川	199
風俗	201
子供謝肉祭	202
さるすべり問答	204
戦の場にけふしも神嘗祭を迎ふ	205
菊の佳節に逢ひて懷を述ぶ	207
ふたつなきいのちを	209
十二月八日	210
軍神につづけ	212
紀元節言志	215

きさらぎの夜空に禱る	217
撃ちてし止まむ	219
梅咲けり	220
撃滅の道に殺到せん	222
レンネル島沖海戦の捷報到る	224
春の駒	226
出陣の旦	227
海光	228
尙武	230
山本元帥の遺烈に誓ふ	231
雄魂を慰めん	232
はるとふゆ	233
草山に	233
千鳥	234
厄除札	235
詔を建艦に謹む	236
比律賓共和國獨立	237

霜と聖戦	239
解と鐵の意志	240
初冬の午後の一と時を	241
聖斷奉行	243
必殺の姿勢	245
敵國降伏	246
東風強し	248

V 昭和二十一年（一九四六）—昭和二十五年（一九五〇）

新秋	258
むかし	258
オディッセイ	258
彼の近狀	259
長男の社會	261
閨門春曙	262

或る陸軍報道班員	249
速力	251
鐵量に鐵量を	252
胚胎	253
廢墟	254
日間瑣事	254

棕櫚の花	262
詩人の出發	263
敗戦の美學	264
小風俗	264
吟遊詩人	265
田舎の詩人	266

大徳寺クロツキ	267
スペインの二つの樂曲の近邊で	
イベリヤ	268
ホタ	269
王道	270
間道	271
風俗二種	
恍惚たる星	272
「アイイダ」と闘ふ男	273
紅いカーペット	274
冬の草木	
五十七才のゴオグ	275
中學生	275
朝のラウンジ	276
閉ざされた庭	276
斷食	276
雀	276

青寫眞	277
寒風の街道	277
ビフテキ	277
小春	277
場末の古道具店でアポリネエルに遇ふ	278
空想の水栓	
機械	279
法馬	280
二頭立の馬車で	280
踏繪	281
蝶	282
黒死病	282
うすばかげらう	283
ドラクロア	284
若い惡魔	284
白洲にて	285
風俗採集（スクラップ）	285

リラの夜	287
風俗採集	
ドクチャンあります	288
クロンウエル	289
壁畫(部分)	290
バーマネット・ウエーブ	290
二つのクロツキ	291
三つのメタホオル	291
山の夕べ	292
生涯の部分	
文明	293
資質	294
沙漠	294
蝶	294
稚拙感	294
職業	295
オブジェ	295

敵	295
獻身の杖	296
砦	296
道	296
夏日小園	
エケ・ホモ	297
敵	298
格言	
邪魔で出世	298
厩は別天地	299
染工場の不潔な朝顔	299
白いスエター	300
大大阪のれいめい	301
一九四八年のドンキホーテ	303
ハムレットの春	304
赤煉瓦のステンシヨ	305
海の告知	306

水でつぼう……………	307
裏長屋の倫理……………	308
新らしさはより古きもののなかに……………	309
燕……………	311
りんご……………	313
夜の思料……………	314
ブルースとルンバのあいだで……………	316
林檎分割……………	317
西班牙と松脂……………	319
四九年の半言葉……………	320
文化炎上……………	321
美しきアンダルシヤの野……………	322
夏の思議……………	323
サガレン……………	325
今年はじめての秋雨……………	326
文化祭序詩……………	327
冬の行状……………	328

ノアノア……………	329
二月の美學……………	330
袖珍闘牛士……………	332
金の蠍……………	333
大手前の早春……………	334
朝粧……………	335
夏すでに……………	336
はたるのテール・ライト……………	337
平和……………	338
社會道德を興す婦人の會……………	339
星のロマンス……………	340
カシオペア……………	342
アンドロメダ……………	343
ベルセウス……………	344
ペガサス……………	346
ブレアデス……………	347
百日紅……………	349